

一九六六年を迎えて

幼児教育界に望む

守 屋 光 雄

一九六六年になったからといって、特にとりたてていうわけでもないが、新しい年を迎えるといった契機に、私の常に考えていることとの一端を述べて、皆さまの幼児教育に関する課題意識を刺激することは有意義と思うので、以下、紙数の許す限り、思いつくままにいくつかの意見を述べたい。

一、幼児教育の基本的立場

私は、未来に生きる子どもの人格形成の目標を、自主独立、協力協働におき、この目標を達成するために、歴史的社会的存在として捉えられた子どもの、早期からの系統的組織的教育による差別や疎外のない集団主義教育の必要性を痛感している。教育の原理としては、競争でなく協力を、発達を規定する要因としては、歴史的社会的環境を、発達原理として、成熟より学習を重視している。社会的

適応力を伸ばすということも、現在の社会や権力に受動的に順応することではなく、社会の悪い条件を改革して、新しい秩序を創造できる力を教育するという前向きな姿勢でのぞむことが必要である。

又、いろいろの癖だとか、異常な行動の問題解決についても、単に兆候を抑えるような頓服的処方を求めるのではなく、よってきた原因を根本的に解決することが肝要であり、その場合も、ただ親子関係とか、心理的機制の解釈による療法にとどまらず、更に深く社会的次元において、その真相をみきわめる必要がある。

右に要約して述べた幼児教育に関する私の立場や考え方については、なお、討議を深める必要があると思うが、こうした基本的な考え方について、幼児教育にかかわる人たちは、しっかりした意識をもつことが、何より大切で、その上で、——そうした基本的な考え方に立って、実践的諸問題にとりくんでほしい。

二、幼児教育機関の公立化・体系化

前記の主張を現実化するために、いろいろの問題が考えられる。

わが国では、幼児教育の重要性が口では唱えられているが、国の政策として重視されていない。幼稚園(保育所)の大部分が私立であり、私立に対してほとんど公的な財政的措置が行なわれていない。

国公立幼稚園が極めて少ない上、その多くは一年保育である。小学校の空教室を利用したり、余った先生を使おうとしたり、日教組対策としての義務化は困るが、幼児教育を保障するという前向きの義務制化は推進すべきである。

わが国では、乳幼児教育における体系化が欠けていて、保育所は厚生省・幼稚園は文部省のかんかつで、保育所ではいまだに教育不在の慈善的施設の色彩が強く、幼稚園は、選ばれた階層の子どものための特殊学校の雰囲気がかこっている。乳幼児教育が、社会的にも、教育的にも保障されるためには、乳幼児教育(就学前教育といってもよい)が、厚生、文部いずれかの省、(又は、新しい児童婦人省)によって、かんかつされ、国公立の園を増設するとともに、私立への積極的財政援助を行なうべきである。福祉と教育は一体のものであり、文部、厚生両省の所管の違いから、就学前児童に対する政策、行政が別々に行なわれ、そこに、乳幼児の福祉の増進、教育の発展が阻まれ、却って、子どもにも、親にも、更に指導者間に

おいてさえ差別をつくっている。私は、一日も早く各省が縄ばり争いをやめて、行政面においても、教育面においても総合かつ一貫した体系が確立することを切望するが、現時点においては、とりあえず相互調整をはかるための委員会のようなものをつくり、これが中心になって、相互の理解を深め合う中で、三才児までの保育は厚生省、三才以後の保育は文部省というように、年齢発達の観点から両省の所管を暫定的にきめ、将来は、一つの省で所管するよう対策を進めてはどうだろうか。とにかく、乳幼児(就学前児童)の教育の公立化、体系化について、もっと積極的かつしんげんに考えるべき時がきていることを強調したい。

三、人の問題

幼稚園又は保育所で特に問題になることは、そこで働く人である。幼稚園や保育所の先生に進んでなろうという人が少ない。結婚までの腰かけ仕事であったり、幼児の相手ぐらいできるだろうというので入ってくる人もある。情熱をもやして入ってくるが、自分の仕事が高く評価されなかったり、労働が重く、賃金が低かったりしてやめていく。保母とか幼稚園教師たちが、社会的に低く評価されがちでもある。特に、私立の施設が多いわが国では、職員の慈善的献身や家庭への不当な依存によって運営されている現状は黙視されてはならない。

職員に対する社会の理解、職員の自覚と労働条件の改善、身分の保障は同時に考慮されねばならない。特に、職員たちが、理論的研究や実践の中で得た成果を発表討議する機会を持つことができるよう、正しい教育やよい研究ができるような条件をつくる必要があるで、天下りの、なれあい、お祭り、行事的な研究会でなく、自主的協同的な生き生きとした話し合いの会をもつことは、仲間意識を育てるにも役立つ。特定の人だけがいつも研究発表をしたり、研究テーマが個人の関心だけに限られるより、多くの人が、研究者も、実践者も親たちも、手をつなぎあい、共通したテーマで協力しあうという体制をつくる必要がある。幼児教育にかかわる人が、孤立すると、からにこもったベテラン(ベテランではない)になったり、逆に不当な劣等感をもったりすることになる。

保育学会をはじめとする幼児教育関係の学会、研究会も個人の研究を決して軽視してはならないが、当面するいくつかの重要な課題についての共同研究を強く推進することを望みたい。

四、当面の研究課題

乳幼児の発達心理や教育について、私が最初に提言した諸原則について、研究を深め討議を重ねることは、基本的な問題であることは、前述した通りであるが、幼児教育に関する当面の研究課題となるものをいくつかあげてみたい。

(1) 健康保育について

幼稚園などでの健康保育では、子どもたちを、病気やけがから守るということだけでなく、より健康な子どもになるよう訓練する必要がある。体重や身長測定も健康の指標の一つになるが、更に大事なのは、運動機能が発達するということである。

それには、健康という保育内容の中で、幼児の体育を重視し、これを単なる「お遊び」として取りあげるのではなく、積極的に位置づける必要がある。

身長・体重の測定値、知能検査の得点では、すぐれた子どもが多くなってきたが、体力(運動機能)の面では、幼児(特に都会では)の運動能力は、その身体的発育に比べると、標準を下まわる傾向のものがかかり多いことが、私どもの研究からも気づかれる。

そこで、保育の中の体育を積極的に行ない、特に、脚の運動訓練のために、徒歩通園(バスなどによらず、近くの幼稚園へ)、園外保育、遠足その他、かけあしをはじめとする脚の訓練の機会を多くもつことが必要である。

そこで、運動機能の発達について、年齢、性別、地域別、階層別などはもちろん、特に教育条件、運動機能促進のためのカリキュラム、教具、健康保育の正しい位置づけなどについて、共同研究がなされることをのぞみたい。

(2) 絵画・製作(美術教育)

幼児の絵や製作について、現場の教師や親や美術家や学者の中に意見や立場の違いがあつて、未だに混乱がみられるようである。

昔の図画教育のように、ただ臨画をやらせるような画一的な技術本位の教育は、まだ親たちの中には残っているにせよ、現場では否定されるようになってきている。そこで、現在では、幼児の持つて生まれた創造力を伸ばすために、幼児の精神をさいの抑圧から解放し、子どもに、自由に、のびのびと絵をかかせるという創造美術教育の立場が主流を占めているようである。

このような考え方に對して、現実の事象の認識を深め、これを創造的に表現させるにはただ子どもたちに、好むままに自由に描かせ、持つて生れた創造力を伸ばし、その内部精神の自然の發展を信頼するだけでは不十分であるという立場から、もっと積極的に、感覺の訓練、言語を媒介とする認識の機能の發達をめざし、生産的的思考力を高めるための(生活)リアリズムの美術教育が主張されてきた。しかし、このリアリズムの立場が誤解されると、昔の技術主義教育への逆行にもなりかねない。しかし、この生活リアリズムの教育について、わが国では、理論的にも、実践的にも、まだ充分研究が行なわれていない。

この問題は、ただ幼児の美術教育だけでなく、さきにも指摘した、幼児教育や發達の基本的な考え方にかかわってくるので、保育界で、今後しんげんに取りくむべき課題であると信ずる。

(3) 身心障害児のための幼児教育

最近の学会でも、津守貞氏(第七回日本教育心理学会)や、西谷三四郎氏(第三回特殊教育学会)たちによつても取りくまれてきているように、身心障害児——特に、精神薄弱児の幼児期の療育についての研究が注目されてきたが、この方面の研究は、極めて少なく未開拓の面が多く、かつ未だ多くの人たちが関心を持つに至っていないが、この問題は、むしろ幼児教育にかかわりを持つものたちが、今後積極的に研究すべきテーマであると思う。

(4) 幼児教育者の疲労

幼児教育を正しく進めるためには、子どもの側の發達や心理を研究する必要があるのはいうまでもないが、教育者自身についての研究も大切である。教師の類型、教師—子ども関係の研究も相当なわれているが、特に、あまりめぐまれない労働(研究)条件の中で働く、幼稚園や保育所の職員の疲労の調査は、是非行なつてほしい。私立の多いわが国の現状では困難な問題もあるが、「あしたの子どもを創造していくため」には、何よりも「教師たちが豊かな人間として生きていかなければならない」からである。(立命館大学)

参考文献

守屋 光 雄 「發達心理学」(朝倉書店)

守屋 光 雄 「保育心理学」(誠信書房)

松田 道 雄 「私の幼児教育編」(岩波書店)